

歴史散歩

れきしさんぽ No. 43

平和への願い・久留米の戦争遺跡（4） 軍都久留米編

久留米市は、明治 22（1899）年 4 月に実施された最初の市制施行で全国 31 都市とともに誕生しました。発足当時、最小規模であった久留米市が発展の手段として選んだのは軍都への道でした。官民挙げての猛烈な軍隊の誘致活動の末、師団や連隊の移駐が決定します。郊外では軍施設の建設ラッシュが起こり、それに伴い道路網の整備が進み、地域経済は発展していきました。

しかし、十五年戦争がはじまると街は戦争一色となっていきました。ついに運命の昭和 20（1945）年 8 月 11 日、久留米市は米軍の空襲を受け焦土と化し、軍都は終焉を迎えます。

久留米市は長く軍都であったことにより、戦争に関わる石碑などが多く残されています。軍都の歴史とともに市内に残る戦争遺跡をご案内いたします。

1. 久留米師団司令部之碑くろめしだんしれいぶのひ（所在地：諏訪野町 久留米税務署内）昭和 36 年 2 月 9 日建立

明治 40（1907）年、第十八師団が久留米市に設置されますが、大正 14（1925）年、うがきかずしげ宇垣一成陸軍大臣が実施した軍縮政策により第十八師団は廃止されます。しかし、再びの誘致活動により小倉から第十二師団が移駐されます。この地は終戦を迎えるまで北部九州の軍事中枢として存続し続けました。

2. 号砲台紀年碑ごうほうだいまねんひ（所在地：天神町）明治 43 年建立

第十八師団が誘致されると、砲兵隊による号砲で正午を知らせるようになりました。市民はこれを「ドン」と呼び、第十八師団が廃止されるまで続きました。発射場所は今碑がある場所から少し西方の位置で、高い台場の上に据えられていました。おそらくこの台場建設を記念して建てられて



1. 久留米師団司令部之碑



2. 号砲台紀年碑

ものでしょう。

3. 第十八師団記念碑(所在地:諏訪野町 堂女木池)大正 14 年 4 月 30 日建立

大正 14 (1925) 年に第十八師団の廃止が決定すると、当時の師団長は市内に駐留する部隊長会議で承諾を取りつけ、久留米市の協力も得て、記念碑を建設しました。軍と市との共同事業として、軍事施設が集中する中心部で、市が公園予定地にしていたこの地に建てられました。



3. 第十八師団記念碑

4. 久留米工兵隊之跡碑(所在地:御井町 九州沖縄農業研究センター)昭和 40 年 10 月 7 日建立

久留米工兵隊とは、明治 42 (1909) 年、この地に創設された工兵第十八大隊と、昭和 16 (1941) 年、再びこの地に創設された工兵第五十六連隊のことを指し、両隊とも、終戦と同時に解散しました。

先の大戦において両隊が立てた数々の功績を称えるとともに、一命を国に捧げた兵士の冥福を祈り、さらに、青春をかけて心身を鍛え数々の思い出を秘めた心の故郷である、この地と隊を忘れないため、この隊出身者が有志を募りこの地に碑を建立し、永久平和を祈念しました。

5. 耕心園碑(所在地:御井町 九州沖縄農業研究センター)昭和 33 年 10 月建立

この記念塔は、本来、昭和 7 (1932) 年上海事変の際、上海郊外の戦闘で壮絶な戦死を遂げた 3 人の兵士(この 3 人は「爆弾三勇士」あるいは「肉弾三勇士」と呼ばれました)の武勇を長く後世に残そうと、地元有志により、昭和 8 (1933) 年、久留米工兵隊作業場の中に建立されました。しかし、塔に設置された記念像はいつの頃に失われ、台座のみが残りました。

終戦後、この地は国立園芸試験場九州支場となり、その後九州農業試験場園芸部と改称し、その 10 周年記念を迎えるにあたって新たに「耕心園」の碑銘を刻み、現在に至ります。



4. 久留米工兵隊之跡碑



5. 耕心園碑

6. 山川招魂社(所在地:山川町)明治 2 年建立

山川招魂社は、明治 2 (1869) 年、久留米藩第 11 代藩主有馬頼咸よりしげの命により招魂所が設けられ



6-1. 山川招魂社本殿

たことに始まります。ここには、^{かえい}嘉永6（1853）年以降、国事に奔走し殉じた^{まきいずみのかみやすおみ}真木和泉守保臣以下37名および^{ささきんぺい}佐々金平の招魂墓が造られました。また、真木和泉守らと藩政改革を企て事に破れた^{かえい}嘉永の大獄を引き起こし逮捕幽閉され、^{いなたぐいなば}嘉永6（1853）年痛憤のあまり自刃した^{いなたぐいなば}稻次因幡正訓の墓もあります。他にも、明治6（1873）年、三瀨県大参事の提唱により^{たかやまひころう}高山彦九郎の祠堂が建立され、ここに^{みたて}御楯神社が創建されました。

招魂所には陸軍墓地も併設され、佐賀の乱（明治7年）、西南戦争（明治10年）の戦死者、および警察抜刀隊の墓が造られました。さらに、第一次世界大戦中、久留米市にはドイツ人^{かりよ}俘虜收容所が置かれていたため、ドイツ人^{かりよ}俘虜の墓もこの地に築られました。その後、御楯神社は数度に渡り社名を変えましたが、昭和34（1959）年、山川招魂社となって今日に至っています。

また、山川招魂社には多くの記念碑が建てられています。階段を上ると、「^{ばくだんさんゆうしのひ}爆弾三勇士之碑」がみえてきます。さらに進むと、「^{はけんぐんりゆうへいだんこうへいごじゅうろくれんたいいれいひ}ビルマ派遣軍 龍兵団工兵五十六連隊慰霊碑」、同兵団^{しちようへい}輜重兵五十六連隊生存者により建立された「^{だいとうあせんいれいひ}大東亜戦慰霊碑」があります。

なお、陸軍墓地は、昭和17（1942）年、野中町（現在の久留米競輪場）に移転しました。

7. ^{きくほへいだいごじゅうろくれんたいひ}菊歩兵第五十六連隊碑（所在地：篠山町 篠山神社境内）昭和40年5月建立

歩兵第五十六連隊は明治38（1905）年に創設され、大正3（1914）年、第一次世界大戦時に^{テナオ}青島攻略戦において功績を上げましたが、大正14（1925）年、第十八師団とともに廃止されました。しかし、昭和12（1937）年、日中



6-2. 爆弾三勇士之碑



6-3. ビルマ派遣軍龍兵団工兵五十六連隊慰霊碑



6-4. 大東亜戦慰霊碑



7. 菊歩兵第五十六連隊碑

戦争が始まると第十八師団の主力部隊として再編成され、中国へ派兵されます。太平洋戦争に突入すると、シンガポール、ビルマ（現ミャンマー）を転戦し、ビルマでその役割を終えます。

この石碑は、歩兵第五十六連隊の生き残った人たちが、戦友の死を平和の礎とし、これをもって亡き戦友の霊を弔うため、部隊発祥の地に縁がある久留米城内に建立したものです。

8. 東郷平八郎旧書齋(所在地:篠山地 篠山神社境内)大正 15 年移築

大正 15(1926)年、久留米市出身の実業家小倉敬止が東京にあった東郷平八郎の書齋を買い受け、篠山神社参道東側に寄贈し移築しました。

その後、昭和 35(1960)年、石橋正二郎により久留米城が整備された際、現在地に再移築されました。

現在、この書齋は東郷記念館として一般に公開（要予約）されています。



8. 東郷平八郎旧書齋

9. 明治天皇大本営跡(所在地:城南町 福岡県立明善高等学校)昭和 6 年 11 月建立

明治 44(1911)年 11 月 11 日から 11 月 15 日まで明治天皇指揮下九州の山野で陸軍特別大演習が実施されました。このとき大本営が中学明善校（現在の福岡県立明善高等学校）に置かれ、行在所が新築されました。現在の明善高校同窓会館はこれを改築したものです。

この石碑は、昭和 6(1931)年 11 月、天皇御臨幸 20 周年記念式典が久留米市において行われた際、小倉敬止が建立したものです。



9. 明治天皇大本営跡

【参考文献】

『久留米碑誌』久留米碑誌刊行会（1973）

『山川招魂社誌』山川校区郷土研究会（1999）

歴史散歩 No.43 平和への願い・久留米の戦争遺跡（4）

平成 30 年 3 月 31 日発行

編集：久留米市市民文化部文化財保護課 所在地：〒830-8520 福岡県久留米市城南町 15-3

電話：0942-30-9322 FAX：0942-30-9714 E-mail：bunkazai@city.kurume.fukuoka.jp